

本資料の位置づけ: 宇宙基本計画工程表の施策「24 宇宙システムの全体の抗たん性強化」において、工程表上の各施策と機能保証強化の関連性を説明するもの。

事案発生前の対策 (防衛行動)

警報・回避能力強化

SSA運用体制の構築、各国との連携強化【21】

システム構築時の対策 (抗たん性強化)

衛星等単体の防護強化(単体での対処)

×バンド防衛通信衛星3号機の整備【15】

測位衛星の信号への妨害対策検討【43】

手段の冗長化(衛星の機数増等)

準天頂衛星7機体制に向けた取り組み【1】

情報収集衛星10機体制に向けた取り組み【45】

装置の分散(衛星機数増・打上システム強化)

ひまわり8号・9号の2機体制運用【9】

H3、イプシロンロケットの開発【17,18】

射場の在り方検討【19】

事案発生後の対策 (再構築)

回復能力強化

即応小型衛星・打ち上げシステムの
運用構想等の調査・研究【6,20】

代替機能の活用

準天頂衛星システムの利活用促進等【2】

基盤的取組

国際協力等

同盟・友好国との宇宙に関する協力強化【46】

宇宙空間における法の支配の実現・強化【45】

産学官の参加による国際協力の推進【48,49】

宇宙技術・産業基盤の強化

早期警戒機能に係る取り組み【7, 23】

(2波長赤外線センサの宇宙実証による知見蓄積、先進光学衛星への相乗り)

基幹ロケットの優先的使用、調達制度の在り方の検討【16, 44】

部品に関する技術戦略の策定【30】

国内の人的基盤の強化【39】

技術試験衛星、光データ中継衛星の開発等【13, 14】

民間技術の積極的な発掘・育成【28,29,31, 53】

打上げに関する技術開発【33,34】

スペースデブリに関する研究開発【53】